

2-6 教育上の目的に応じた学生が修得すべき知識能力に関する情報

2-6-1 学部・学科の教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

環太平洋大学は、本学のディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備え、これからの社会で活躍できる人材を育成するため、○ 教養科目、○ 専門基礎科目、○ コア科目、○ キャリア形成科目等から教育課程を編成している。教養科目は、全学部の学生が共通に身に付ける学習内容と位置付け、幅広く学問領域が学べるように設定している。専門科目及びコア科目は、学部・学科の特有の授業内容で構成しており、また、コア科目、キャリア形成科目では、実践的・体験的な学びができるように、カリキュラムを設定している。成績評価は、科目の特性を踏まえて「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等の能力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」等を多面的に評価するため、受講態度、報告・発表、レポート課題、試験など多様な方法を組み合わせて総合的に評価を行う。

《体育学部 学部・学科の教育課程編成の方針》

体育学部では、学部のディプロマ・ポリシーに従って、豊かな人間性、幅広い教養、基礎的学習能力、健康・スポーツ科学に関する専門的知識、運動技能、健康・スポーツの指導ができる実践力、キャリア形成に向けての総合的能力を身に付けることを目的に、大きく下記の3つの科目区分に分けて、学科ごとに体系的なカリキュラムを編成する。

○教養科目、○専門基礎科目、○コア科目

教養教育では、幅広い内容の科目を履修する一方で、専門教育（専門基礎科目、コア科目）においては、スポーツや健康に関する専門知識と技能及びキャリアに関する多様な科目を履修する。

各科目共に、資質や能力を総合的に判定し、それぞれが成績にどのように反映されるか、評価の配分割合をシラバスに明記している。学習成果として、「卒業研究」や「課題レポート」、「教職実践演習」において全てのディプロマ・ポリシーを満たすことが出来ているかの最終的な確認・判定を行う。

体育学部 体育学科

体育学科では、ディプロマ・ポリシーに従って、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成し、実施する。

- (1) 豊かな人間性、幅広い教養と実践力を身に付けるために、教養科目として、「語学と基礎技能の理解」、「人間の理解」、「自然の理解」、「社会の理解」、「キャリアプランニング」の5つのカテゴリーに区分して科目を編成し、「キャリアプランニング」でのフレッシュマンセミナーや基礎ゼミナールでは、少人数でのメンター制度を採用し、学生が主体的な学びを実践できるように配慮する。
- (2) 専門基礎科目は、「体育学」、「指導・教育に関する理解」の2つのカテゴリーに区分して体育学や教育学領域の基礎科目を配置し、健康増進、体力の向上、競技力向上、教育力の向上に貢献できる基礎的知識や現代社会において果たす教育・スポーツの役割に関して多面的な学習を行う。
- (3) コア科目は、学生のキャリアに応じた「スポーツ科学」、「スポーツビジネス」、「教員養成」、「公務員養成」の4つのカテゴリーに区分した科目を編成し、各領域における専門科目の体系的な学習を行うと共に、これらを実践できる力を養う。

実技に関する科目は、雪上スポーツ、水泳Ⅰ（基礎）、集団行動を必修科目とし、これ以外に、専門とする種目を中心に実習科目を配置し、専門的運動技能と実技指導能力を身に付けさせる。

キャリアに関する科目は、「教育実習」、「インターンシップ」、「ゼミナール」の3つのカテゴリーに区分して科目を編成し、卒業研究やゼミナールでは、現代社会において果たす体育・スポーツの役割を深く理解させ、コミュニケーション能力、課題探求力、問題解決力などの総合的能力を身に付けさせるよう配慮する。

以上のように、豊かな人間性、国際的、全国的、地域的な各レベルの体育・スポーツ界をリードする多様な専門家養成を目指したカリキュラムを構成しており、これらの評価については、レポートや定期試験で評価を行う。

体育学部 健康科学科

健康科学科では、ディプロマ・ポリシーに従って、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成し、実施する。

- (1) 豊かな人間性、幅広い教養を身に付け、問題発見・解決する能力を育成し、倫理観や教養を高めるために、「語学と基礎技能の理解」、「人間の理解」、「自然の理解」、「社会の理解」、「キャリアプランニング」の5つのカテゴリーに区分して科目を編成する。カリキュラムの実施に当たっては、基礎理論の構築後、実践においてさらに専門性を深めるために、体育実技・柔道整復実技、健康運動施設実習等の科目を編成している。
- (2) 専門基礎科目は、科目への移行をスムーズに行い、専門科目の基礎を構築し、広い視野と体育学における感覚を涵養するために、専門基礎教科として体育学・健康科学の基礎をなす科目を多く編成する。実践を踏まえて理論の見直しや現場での体験・実習活動を1年次から4年時に渡り継続的に取り入れている。学内・外で実践的経験を積む「整復臨床実習Ⅰ・Ⅱ（学内）」や「アスレティックトレーナー実習Ⅰ～Ⅴ（学内）」、「健康運動実習（学外）」も導入している。
- (3) 専門科目は、健康科学の専門性を深めるために、コア科目を「健康運動分野」、「アスレティックトレーナー分野」、「柔道整復分野」の3つの分野に分けて、体系的に科目を編成する。ゼミナールの分野における大学教育での教育課程を促進させるために、「課題研究Ⅰ」、「課題研究Ⅱ」を編成する。実技に関する科目を除くその他の科目では、レポートや定期試験で評価を行う。実技・実習科目においては、実践的な力と理論的な力を多面的にレポートや定期試験、実技試験等で評価する。総合評価として「ゼミナールⅡ（応用）」において最終的な確認を行う。

《次世代教育学部 学部・学科の教育課程編成の方針》

次世代教育学部では、学部のディプロマ・ポリシーに従って、豊かな人間性、幅広い教養、基礎的学習能力、教育学・保育学・心理学・社会学などに関する専門的知識とそれらを活かす実践力、コミュニケーション能力、異文化理解力を身に付けることを目的に、大きく下記の3つの科目区分に分けて、学科ごとに体系的なカリキュラムを構成する。

○ 教養科目、○ 専門基礎科目、○ コア科目

教養教育では、幅広い内容の科目を履修する一方で、専門教育(専門基礎科目、コア科目)においては、教育的知識や技能に加えて、豊かな人間性やコミュニケーション能力を身に付けるために多様な科目を履修する。

各科目共に、資質や能力を総合的に判定し、それぞれが成績にどのように反映されるか、評価の配分割合をシラバスに明記している。学修成果として、「ゼミナールⅡ」「卒業研究」ですべてのディプロマ・ポリシーを満たすことが出来ているかの最終的な確認・判定を行う。

次世代教育学部 こども発達学科

こども発達学科では、ディプロマ・ポリシーに従って、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成し、実施する。

- (1) 豊かな人間性、幅広い教養と実践力を身に付けるために、教養科目を「語学と基礎技能の理解」「人間の理解」「自然の理解」「社会の理解」「キャリアプランニング」を5つのカテゴリーに区分して編成する。
「子どもと創る運動・遊びⅠⅡ」は2年間にわたる実践演習授業として展開し、「地域子育て支援授業」を大学構内で実践し、学生が企画・運営・指導にあたる。また、グループワークやディスカッションによる少人数教育と双方向型授業をより充実させる。
- (2) 専門基礎科目は、「次世代教育学総論」「次世代教育実践学総論」を基礎に置き、保育士資格・幼稚園教員免許取得のためのカリキュラムとして「教育・指導に関する科目」「教科等に関する科目」を編成し、プレゼンテーションや実践活動を通して、コミュニケーション能力、保育・教育実践力を養う。
- (3) コア科目は、「子どもの発達に関する理解」「保育・幼児教育に関する理解」に区分して科目を編成し、特色ある科目として「子どものこころ」「子育て論」「子どもと作る運動・遊びⅠⅡ」では総合的な学習経験を通じた保育実践力はもとより、創造的思考力を養う。

キャリアに関する科目は、「保育・教育実践」「インターンシップ」「ゼミナール」に区分して編成し、特色ある科目として「KIDS ENGLISH」「幼児体育指導法」では、保育・教育実践力の養成とあわせ、さらにグローバル社会に対応できる専門的な力の修得を目指す。また、卒業研究やゼミナールでは、コミュニケーション能力、課題探求力、問題解決力などの総合的な能力を身に付けられるように配慮する。

以上のように、豊かな人間性を備え、コミュニケーション能力、多面的な子ども理解とその支援ができる専門性を身に付け、次世代の発展と構築に貢献する、国際的でグローバルな保育者・教育者・指導者の養成を目指したカリキュラム編成をしている。

これらの評価については、レポートやプレゼンテーション、幼児を対象とした行事運営に展開、実技試験、定期試験等で到達点を見極めながら総合的に評価を行う。

次世代教育学部 教育経営学科

教育経営学科では、ディプロマ・ポリシーに従って、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成し、実施する。

- (1) 豊かな人間性、幅広い教養と実践力を身に付けるために、教養科目として、「語学と基礎技能の理解」「人間の理解」「自然の理解」「社会の理解」「キャリアプランニング」の5つのカテゴリーに区分して科目を編成し、アクティブラーニングなどを通して主体的かつ協同的な学びより、深く確実な学びを實踐できるように配慮する。
- (2) 専門基礎教科は、「次世代教育学」を基礎に置き、小学校教科あるいは中学校・高等学校の英語教科の「指導・教育に関する理解」「教科等に関する理解」と「国際性の理解」に分けて科目を編成し、グローバル社会に対応できる力を養う。
- (3) コア科目は、「子どもの発達に関する理解」「教育経営・学級経営に関する理解」「教育実践に関する理

解」に区分して科目を編成し、専門科目の体系的な学習を行い、授業においては、理論と実践の融合を図ることで、教育現場で実践できる素地を養う。

キャリアに関する科目は、「教育実践」、「インターンシップ」、「ゼミナール」に区分して編成し、卒業研究やゼミナールでは、コミュニケーション能力、課題探求力、問題解決力などの総合的能力を身に付けられるよう配慮する。

以上のように、豊かな人間性、今日的教育課題、子ども理解、学級マネジメント力のなどこれらの教育に対応できる教員養成を目指したカリキュラムを構成している。また、これらの評価については、レポートや定期試験等で到達度を見極めながら総合的に評価を行う。

論議し、自らの意見を発表できるよう配慮する。

「教育実習」や「インターンシップ」においては担当教員の評価に加えて、実習受入れ校やインターンシップ先の外部評価を導入する。「ゼミナール」では、世界の社会的・政治的・文化的・学術的知識を持ち、現代社会の諸問題の創造的解決を求めてやまない探究心をディスカッションや実践、研究論文・発表などで評価を行う。

《経営学部 学部・学科の教育課程編成の方針》

経営学部では、学部のディプロマ・ポリシーに従って、豊かな人間性・幅広い教養に基づく課題提案力、異文化理解に基づくコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、国際人としての自覚とアイデンティティーの涵養に基づく実践力と生涯学習力、経営に対する総合的な学習経験に基づく知識の習得とそれらを活かす実践力を身に付けることを目的に、大きく以下の4つの科目区分に分けて、学科ごとに体系的にカリキュラムを構成する。

○ 教養科目、○ 専門基礎科目、○ コア科目、○ キャリア形成科目

教養教育では、幅広い内容の科目を履修する一方で、専門教育（専門基礎科目、コア科目、キャリア経営科目）においては、経営的知識や技能に加えて、豊かな人間性や倫理観、課題提案力を身に付けるために多様な科目を履修する。

各科目共に、資質や能力を総合的に判定し、それぞれが成績にどのように反映されるか、評価の配分割合をシラバスに明記している。学修成果として、「卒業研究」ですべてのディプロマ・ポリシーを満たすことが出来ているかの最終的な確認・判定を行う。

経営学部 現代経営学科

現代経営学科では、ディプロマ・ポリシーに従って、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成し、実施する。

(1) 豊かな人間性・幅広い教養に基づく課題提案力

アカデミックリテラシーを始めとして、必要な人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身に付けるために、教養科目は語学と基礎技能の理解、人間の理解、自然の理解、社会の理解、キャリアプランニングの育成を行う科目を配置する。また、初年次から少人数制による基礎ゼミナールをスタートしていくことで、課題を見つける力、考え抜く力、コミュニケーション能力を養っており、専門科目の主体的学びの育成をサポートしている。

(2) 異文化理解に基づくコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力

教養科目、専門基礎科目、コア科目、キャリア形成科目のすべてにおいて異なった考え方、文化など多様性を受け入れる広い視野と許容力を育成する科目を配置している。また、各科目ともに、ディスカッションと双方向型授業を主体とした授業運営を行い、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力育成に重点を置いた指導を行っている。

(3) 国際人としての自覚とアイデンティティーの涵養に基づく実践力と生涯学習力

科目においては、コア科目内に「国際・経済領域」設置し、国際人・リーダーとしてグローバルに活躍できる授業を展開している。また、同時の留学生と幅広くディスカッションが行える教育環境の提供と共に、充実した交換留学制度の提供、海外インターンシップの提供を行っている。

(4) 経営に対する総合的な学習経験に基づく知識の習得とそれらを活かす実践力

専門基礎科目としては、マネジメント領域の科目を配し、マネジメント、経営学、経済学会計学、マーケティングの基礎を学ぶことにより、現代のビジネス社会に必要な基礎知識や社会の仕組みに関して多面的な学習を行う。

コア科目として、経営学領域、国際・経済学領域、会計・ファイナンス領域、マーケティング領域における専門科目の体系的な学習とその実践を通じて、理論と実践を融合させる。

キャリア形成科目として、各種実習や特別講義・演習等の実学を通じて、職業倫理を備えた実践的職業人としての実務能力を身に付ける教育課程を編成する。

成績評価は、受講態度、報告・発表、レポート課題、試験など多様な方法を組み合わせて総合的に評価を行う。

[2020年5月1日現在]